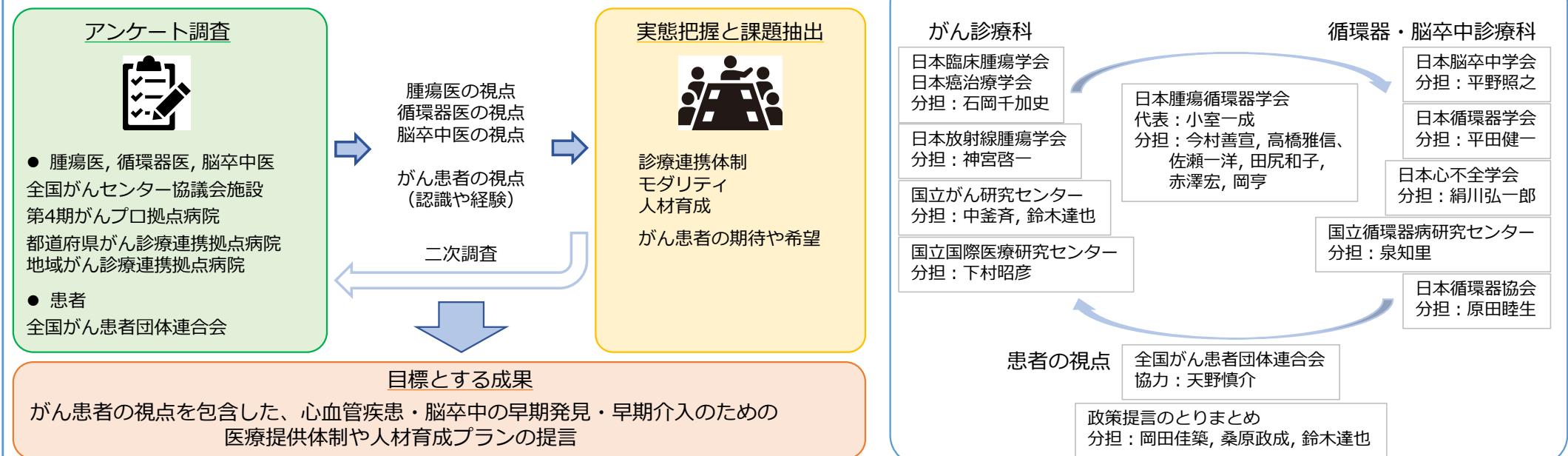


がん患者に発症する心血管疾患・脳卒中の早期発見・早期介入に資する研究

目的

早期診断や治療の進歩によりがん患者の生存率は飛躍的に向上しているが、**がんやがん治療に関連して発症する心血管疾患や脳卒中が増加し、新たな課題となっている。**第4期がん対策推進基本計画や第2期循環器病対策推進基本計画においても、がん患者に発症する心血管疾患・脳卒中への対応の必要性が指摘されている。本研究では、わが国のがん医療における心血管疾患・脳卒中の診療体制の実態把握を通じて早期診断・早期介入に関する課題を抽出することを目的とし、がん診療連携拠点病院およびがん患者を対象にアンケート調査を実施し、医療提供体制や人材育成への課題の抽出と解決策を検討する。

研究概要



がん患者に発症する心血管疾患・脳卒中の早期発見・早期介入に資する研究

現状の課題と、今後の方策の提案

- 連携強化**：腫瘍医と循環器医、脳卒中医のコミュニケーションが現状では不足しており、連携を促進する施策が必要である。
- 知識の普及**：腫瘍医、循環器医、脳卒中医、がん患者いずれにおいても腫瘍循環器病（心血管疾患・脳卒中）領域の知識が足りていない現状が見受けられ、腫瘍循環器病に関する知識や情報の普及が必要である。各領域の専門医養成課程で腫瘍循環器病について学べる機会を拡充するとともに、患者・国民への情報提供・啓発を進める必要がある。
- フォローアップ体制の整備**：循環器病（心血管疾患・脳卒中）に影響する可能性の高い薬剤を使用したがん患者に対する、検査を含めたフォローアップ体制の整備が望まれる。ガイドラインなどの整備により、循環器病の検査を含む腫瘍循環器病診療の実践・均てん化につながることが期待される。エビデンスが不足している部分に対しては、必要な調査研究に基づき、長期フォローアップのコンセンサスを作成し、ガイドラインなどに反映させることが大切と考えられる。
- 循環器病の急性期診療連携の推進**：脳卒中を含む循環器病エマージェンシーに対する対応として、がんを診療する専門施設において遅延なく循環器病診療ができるように、循環器病の急性期診療が可能な施設と普段から連携体制を構築しておくことが望まれる。
- 負担も考慮した腫瘍循環器診療連携**：がん診療における循環器病コンサルテーションのメリットは多くの医師が理解しているものの、循環器医、脳卒中医への負担の増加も懸念点として挙げられる。適切な循環器コンサルテーションに基づき、循環器病の発症・重症化予防、入院の抑制、予後の改善に寄与する取り組みに対して適切な評価が必要である。循環器医、脳卒中医の負担を増やすことなく、適切な腫瘍循環器病診療を実施するため、ガイドラインの整備に加え、役割分担の明確化、腫瘍循環器病診療に役立つツールの整備も有効と考える。
- 研究の推進とエビデンスの構築**：上記の項目を促進するために、腫瘍医と循環器医、脳卒中医との連携推進によるがん患者の予後改善、検査や循環器コンサルテーションによる重症化予防や予後改善への寄与、講習会等を通じた知識習得と適切な医療の実践ががん患者の予後に寄与することを示すエビデンスの構築に向けて、必要な調査研究を実施することも大切と考える。